

序

社会学ゼミが発足して3年目となった。新たに4人の新メンバーが入り、3年生6人、2年生4人と合わせて総勢14名のゼミになった。3年前に4名のゼミ生がいた頃と比べて、その数は格段に増えた。

2004年度は、前期はいつものとおり、まちづくりに関わる諸文献を輪読した。一昨年を中心的なテーマであった内発的發展について再度検討を加えるべく、後半には守友友一の『内発的發展の道』（農文協，1991）を輪読した。その他の文献については巻末のリストに書かれている（昨年の分も掲載した）。

とりあえずは恒例となっている夏の旅行は、8月8,9日に帯広と池田を訪れた。いかんせん移動距離の長くなってしまふのは、北海道旅行の宿命であるが、今回も同じく移動が長かった。途中、高倉健主演の「ぼっぼや」の舞台となった場所に立ち寄ったりしながら、ようやく着いた駅前帯広名物豚丼を食べたのが懐かしい。午後は池田のワイン城を訪れた。2年ぶりのワイン城からの眺めは、相変わらず美しいものであった。池田への移動中に見たキツネに十勝の自然を感じたものである。夜は、私一人で地ビールレストランを訪れたが、そのうまさに感激しつつも、みんなで来ればよかったと後悔した。翌日は、帯広市役所を訪問し、資料探しを簡単にしてみた後に、最上階にある展望スポットでくつろいだ。その後、郊外にあるビート資料館を見学、街に戻って柳月や六花亭などで買い物を楽しんだ。帰り際に帯広でチェーン展開している「インディアンカレー」に入り、食事をしたが、こうしてみると、食べることと飲むことについて非常に充実した旅であった。

このレポートは、今回我々が訪れた帯広を調べたものである。例年と同じように、1年生が主体となって、概要・歴史・産業・まちづくりをテーマとしてレポート作成に取り組んでもらった。それぞれ努力をしてもらったことは確かだが、出来上がったものについて、指導者としては、残念ながら不満が残る作品となった、と正直に書かせてもらおう。一部の学生にファイルの破損等のトラブルがあったようだが、それはそれとして、もう少しいいものができたのではないかと思ったりもしている。これはひとえに指導教員の指導力のなさに還元されるものであるだろう。来年以降は不満の残らないレポート作成に努力をしたい。

北海道教育大学旭川校社会学研究室 角 一典

追記：特に心残りだったのは、三浦君の豚丼レポートを見るができなかったことです。